

氏名	服 部 央
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2153号
学位授与の日付	平成13年3月25日
学位授与の要件	医学研究科外科系耳鼻咽喉科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Expression of costimulatory CD80/CD86-CD28/CD152 molecules in nasal mucosa of patients with perennial allergic rhinitis. (通年性アレルギー性鼻炎患者の鼻粘膜における共刺激分子CD80/CD86-CD28/CD152の検討)
論文審査委員	教授 荒田 次郎 教授 小出 典男 教授 大月 洋

学位論文内容の要旨

近年、T細胞活性化において共刺激分子B7(CD80,CD86)とそのリガンド(CD28,CD152)が必須であることが知られている。我々は実際の鼻アレルギー応答の場である鼻粘膜における共刺激分子CD80/CD86-CD28/CD152の発現を検討した。アレルギー性鼻炎患者と非アレルギー性鼻炎患者の鼻粘膜上のB7ならびにそのリガンドの発現を観察し、さらにB7分子発現細胞のフェノタイピングを試みた。非アレルギー性鼻炎患者に比べアレルギー性鼻炎患者ではB7及びそのリガンドの発現は有意に多く、B7発現細胞の同定を試みたところCD1a,CD14,CD19陽性細胞などに認めた。以上より非アレルギー性鼻炎患者ではB7分子の発現欠如ないし弱いため免疫応答が誘導されず、アレルギー性鼻炎患者ではB7分子の発現が誘導され、CD28分子を介してT細胞の活性化を促しアレルギー反応を増強させる可能性が考えられた。また過剰なT細胞の活性化はCD152分子を介しアレルギー反応を沈静化させている可能性が考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、通年性アレルギー性鼻炎患者の鼻粘膜における共刺激分子CD80/CD86-CD28/CD152の発現を検討したものである。非アレルギー性鼻炎患者に比べアレルギー性鼻炎患者ではB7(CD80/CD86)およびそのリガンドであるCD28/CD152発現は有意に高く、B7発現細胞はCD3⁽⁺⁾, CD1a⁽⁺⁾, CD14⁽⁺⁾, CD19⁽⁺⁾細胞などであった。このことよりアレルギー性鼻炎患者ではB7分子の発現が誘導され、CD28分子を介してT細胞の活性化が促進しアレルギー反応が増強すると考えられた。同時にCD152分子はアレルギー反応を沈静化させる可能性も示唆した。

よって本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。